からし種

シリーズ～神の国～

2013/2/17

ルカによる福音書13章18～21節

そこで、イエスは言われた。「神の国は何に似ているか。何にたとえようか。それは、からし種に似ている。人がこれを取って庭に蒔くと、成長して木になり、その枝には空の鳥が巣を作る。」

また言われた。「神の国を何にたとえようか。パン種に似ている。女がこれを取って三サトンの粉に混ぜると、やがて全体が膨れる。」

「からし」とはどんな植物?

- 実は聖書で「からし種」と呼ばれている植物が何であるか分かっていない!
- 「クロガラシ」説
  - 種はからしの原料となる。「カラシナ」とも呼ばれる。成長すると1.5メートルほどになる。種は1ミリメートルほど
- 「キダチタバコ」(木立たばこ)説
  - 種はからしよりはるかに小さく0.1～0.5ミリメートルほど。成長が早く,灌木状になり4メートルを超える場合も
  - イスラエルでは聖書の「からし種」と説明されるが,もともと南米原産で,パレスチナに入ったのは聖書時代の後!

クロガラシ

キダチタバコ

ついでに「パン種」について

- 現在使われている「ドライ・イースト」ではなく,いわゆる「天然酵母」のこと
  - 「酵母菌」であることに変わりはないが…
  - 糖を食べてアルコールと大量の炭酸ガスを出す
- 果実などを発酵させて作り,一度作ると,膨らませたパン生地の一部を取っておき,次に作るパンに混ぜて使う。だから「パン種」と呼ばれる
  - イスラエルではパン作りは毎日のことであったので,夕方にパン種を混ぜて生地をこね,朝,一日分のパンを焼いた
  - 「三サトン」は約40リットルだが,おそらく一日分のパンの量のこと

この2つのたとえ話のポイント

- からし種・パン種もいずれも小さく,取るに足りない大きさである
  - そのままでは何であるか分からないほど
- 土に蒔かれること,パン生地に混ぜられること
  - そのままでは何の役にも立たない
- 知らず知らずのうちに成長し,予想外に大きくなる
  - 成長すると「空の鳥が巣を作る」ほど大きくなる
  - 一握りのパン種が一日分のパン生地を発酵させる
- 生きている
  - 小さくても生きて働く力がある

もう一度神の国の掟

- 人にしてもらいたいと思うことを、人にもしなさい
- 敵を愛し、あなたがたを憎む者に親切にしなさい
  - あなたの頬を打つ者には、もう一方の頬をも向けなさい
- 人を裁くな。そうすれば、あなたがたも裁かれることがない
  - あなたは、兄弟の目にあるおが屑は見えるのに、なぜ自分の目の中の丸太に気づかないのか
- 赦しなさい。そうすれば、あなたがたも赦される
- 与えなさい。そうすれば、あなたがたにも与えられる

これらの「種」をどうするか?

- まずは実行に移そう!
  - 「蒔く」「混ぜる」とは,神の国の掟を実行に移すこと
  - 持っているだけでは何の役にも立たない
- どんな小さな事でもOK!
  - まずは身近な人から(やがて遠くの人まで影響する)
  - 「0」と「1」ではまったく違う
- あなた一人でもOK!
  - 自分一人が実行して何も変わらないのでは?
- 結果は保証されています!
  - 必ず予想外に大きな結果となります

では具体的に何をするのか?

- 「敵」(苦手な人・嫌いな人)に対して
  - まずは毎日その人の祝福を祈ろう!
  - 嫌なことをされたり,言われたりしたら「ありがとう」と言おう
- 「奪う人」「求める人」に対して
  - 奪われたと思うのではなく,プレゼントしたと思う
  - 他にプレゼントするものはないか考える
- 裁かない(批判しない)
  - 気になっても口にせず,自分に問題はないか考える
- 赦しなさい
  - 赦せない心に気づこう!
- 与えなさい
  - お金,時間(つきあう),行動(親切・手伝い),優しい言葉・・・

500分の1㎜